



2024年度 浸礼式



2024年7月15日(月・祝)、秋川祈禱院で2024年度浸礼式が行われ、35名の聖徒が浸礼を受けました。浸礼を受けるために集まった35名の聖徒は、この日のために3回の浸礼教育を受けて準備してきました。また、純福音東京教会では、7月8日(月)から12日(金)まで浸礼式特別早天祈禱会を捧げ、この日のために祈り備えてきました。(詳細は次頁)

目次

- P2: 2024年度 浸礼式
- P3: 日本宣教① 一中部地方・東北 I (甲信越)・房総地方・八丈島
- P4: 日本宣教② 一関東地方(八王子・葛西・支聖殿)
- P5: 日本宣教③ 一札幌神学校入学式 & 北海道宣教
- P6: 世界宣教 一マレーシア宣教 & アジアリーダーズサミット(インド)
- P7: ダイヤモンドウィーク特別聖会(ク・チュン牧師)
- P8: 担任牧師コラム「隠された生命力」
- P8: キリスト教大韓神様の聖会(キハソン)第73次定期総会

WebとLINEでも
ご覧になれます。

Webページ



公式LINE



お知らせ



札幌神学校 第4期生 募集中

関心のある方は、教区長までお問い合わせください。

ホームページ(<https://sapporobible.college>)



宣教旅行に同行する聖徒を募集しています

日本宣教については、未だ受付中の宣教旅行がありますので、これを機に是非関心のある方は、教区長までお問い合わせください。

日本宣教
の日程は
こちら⇒



2024年度浸礼式@秋川祈禱院 2024.7.15(月・祝)

浸礼式礼拝 : バプテスマ

イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。
— マタイによる福音書 28:20—

浸礼式を前に、志垣重政担任牧師は「バプテスマ」を主題とし御言葉を宣べ伝えました。



そして、信仰で水に完全に浸かり、出てくるときには、私たちは霊的に新たになります。これまで自己中心的に生きてきた自我が完全に死に、隣人のため、イエス様のために生きていく私たちが新たに生まれるのです。ですから、まず神の国と神の義を求める皆様になりますように。」と語られました。



「イエス様がヨルダン川でヨハネよりバプテスマを受け、水から上がると、天が開け、聖霊様が鳩のような形で来られました。また天からは『これはわたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ』との声がありました。これは三位一体が描かれている場面です。

バプテスマは形式的なものやセレモニーとして行うのではなく、主が共におられ、古き人を脱ぎ去り、新しく作られたと告白する意味があります。

メッセージの後、浸礼を受ける聖徒の信仰を応援するために集まった多くの純福音東京教会の兄弟姉妹に見守られ、期待の中で、聖歌隊の賛美と共に、浸礼式が執り行われました。



父と子と聖霊の名によって水のバプテスマを受けた聖徒が、これからイエス様と共に新たな人生を歩み、いつも神様の恵みがあり、喜びに満ちた人生となることを信じ、お祈りいたします。



日本宣教① 中部地方・東北 I (甲信越)・房総地方・八丈島



東北 I (甲信越) 6/23-26



純福音小山教会



純福音新潟教会



純福音太田教会



純福音群馬教会



純福音新潟GOOD教会

中部地方宣教 4/22-24



純福音上山田教会



純福音長野教会



純福音沼津教会



純福音金沢教会



純福音浜松教会



房総地方宣教 7/1-3



純福音君津教会



純福音成田教会



純福音千葉教会



純福音松戸教会



純福音市原教会



純福音つくば教会



富士バタニア支聖殿



純福音甲府教会

八丈島宣教 6/27



日本宣教② 関東地方 (八王子・葛西・支聖殿)

4/14

錦糸町支聖殿

カン・セヨン牧師



4/21

純福音八王子教会

ファン・ウテ牧師



5/12

川崎支聖殿

コ・ボクドク牧師



6/9

日暮里支聖殿

佐々木栄子伝道師



6/16

藤沢支聖殿

ベ・ジョンスク伝道師



6/30

純福音葛西教会

オ・ミヌ牧師



7/14

立川支聖殿

ハン・テスン伝道師



日本宣教③ 札幌神学校入学式 & 北海道宣教

札幌神学校 第3期生 入学式礼拝

2024.4.2(火)

あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。(中略) わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。 —ヨハネによる福音書 14:1-3—



札幌神学校の理事長である志垣重政担任牧師が講師を務め、「心を騒がせないがよい」と題して、恵みの御言葉を取り次ぎました。

「イエス様は、十字架に架けられ運命を迎えることを自ら弟子たちに宣言しました。しかし、それと併せて、”心を騒がせないがよい”と弟子たちに伝えています。イエス様はこの御言葉を通して、いかなる逆境や苦難、絶望的な状況の中でも、”神様が共におられる”ことを私たちに教えてくれています。私たちに不安や悲しみ、憂いがあろうとも、神様が共におられることを忘れないでください。全知全能であられる神様、三位一体なる聖霊様が共におられるので、私たちは不安や悲しみ、憂いを捨てることができます。

イエス様の御言葉を心から信じ、大胆に突き進んでいきましょう。」と伝えました。

そして「神学校での訓練の日々は苦しく辛く感じる時もあるかもしれませんが、しかし、聖霊様が共におられることを疑わないでください。そのような確固たる信仰を育て上げる神学校生活となりますように」と第三期生を激励しました。



そして、メッセージの後、5名の新入学生の入学許可を宣言されました。(右の写真の左から)

- ・キム・エリ
- ・キム・ユヨン
- ・西津愛羅
- ・浜田侑里
- ・田村祐真



その後、パク・ヒギョン北海道宣教会長からの挨拶に続き、大坂太郎教授(山手町教会担任牧師)から歓迎の辞があり、志垣重政担任牧師の祝祷で入学式礼拝が締めくくられました。

宣教師への道を決心した神学生1人1人が、日本の福音化を牽引する真の主の僕となれるよう、引き続き多くの祈りとご支援を賜りますようお願い申し上げます。



札幌聖殿 祝福聖会

2024.4.3(水)

話がすむと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われた。シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」(後略)

— ルカによる福音書 5:4-7 —

4月3日11時より、札幌聖殿祝福聖会を主にお捧げしました。

講師を務めた志垣重政担任牧師が「お言葉ですから」という主題でメッセージを取り次ぎました。

「ペテロはイエス様の御言葉を聞いて従順し、網を下ろしました。その瞬間から、肯定的な考えに変わり、希望と夢を持つようになりました。ペテロのように、私たちもイエス様を人生の船に招き入れることで、人生が変わります。



嵐や波がなくなることはありませんが、イエス様が共におられるので、その船は沈むことはないということを信じてください。

イエス様がともにおられる船は、魂が恵まれるごとく、全てが恵まれ、すこやかである船です。私たちは既にそのような船に乗っているという事を決して疑わない信徒1人1人となりますように。」と御言葉を解き明かし、恵みを分かち合いました。

メッセージの後、礼拝に参加した札幌聖殿の信徒1人1人に、按手の祈りで祝福し、祝祷をもって礼拝を締めくくりました。

ダイヤモンドウィーク特別聖会 2024.5.1-3(水-金)

5月1日(水)～3日(金)、台湾の新生命教会(New Life Church)担任牧師のク・チユン牧師と台北純福音教会担任牧師のジャン・ハンオブ牧師をお招きし、ダイヤモンドウィーク特別聖会が開かれました。

聖会初日: 霊を整える生活

悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。このような人は主のおきてをよこび、昼も夜もそのおきてを思う。(後略) — 詩編 1:1-6 —

5月1日(水)19時30分より初日の聖会が始まり、ク・チユン牧師は「霊を整える生活」という主題でメッセージを取り次ぎました。「神様は私たちに命を与えられました。神様から与えられた命の木をよく育てるためには、神様の御許、すなわち御言葉の流れのほとりから離れないことが必要です。そして、悪いことは切って整えなければなりません。清いものと汚れているものをよく分別し、油断することなく義人の道を歩んでいきましょう。」と伝えました。そして、「より一層、神様の光の中に進み、霊的な人生を追求して霊的な実を結びますように。」と純福音東京教会の聖徒を励まし祝福しました。



聖会2日目: 天の道(義の道)を歩む

主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。主はわたしの魂をいきかえらせ、み名のためにわたしを正しい道に導かれる。(後略) — 詩編23:1-6 —

5月2日(木)に行われた聖会2日目、ク・チユン牧師は「天の道を歩む」という主題で、義の道の原則について恵みを分かち合いました。「神様を私たちの牧者とする、生きておられる神様がすべてを豊かに供給してください。私たちが神様と共にいたいと求めれば、神様は私たちから離れません。クリスチャンの人生にも逆境があります。しかし、逆境を通して謙遜と憐れみを学ぶことができます。そして、その逆境には神様の油注ぎにより勝利することができます。」と御言葉を伝えました。

また、「神様は、私たちの霊性が日々新たに成長することを望んでおられます。そのためには霊の管理が重要です。心と考えを守り、治め、訓練し、自分の霊性を点検し、主の道を離れない聖徒となりますように。」と勧めました。



聖会最終日: 教会を建てる

人々がわたしにむかって「われらは主の家に行こう」と言ったとき、わたしは喜んだ。エルサレムよ、われらの足はあなたの門のうちに立っている。しげくつらなった町のように建てられているエルサレムよ、もろもろの部族すなわち主の部族が、そこに上って来て主のみ名に感謝することは、イスラエルのおきてである。(後略) — 詩篇122:1-9 —



5月3日(金)の聖会最終日に、ク・チユン牧師は「教会を建てる」という主題でメッセージを取り次ぎました。「私たちがこの聖会で学んできた霊的訓練のゴールは、“教会を建て上げる”です。神様は、神様の地境を広げていくことを最も願われるからです。そして、教会とは神様の聖殿です。家庭、学校、職場が、神様の臨在する重要な聖殿になることを忘れてはいけません。聖徒一人一人が用いられる場所で霊的教会を建て上げ、福音の実を結ばなければなりません。」と宣べ伝えました。



そして、「教会には、それぞれに特別な召しと働きがあり、特徴も異なります。しかし、それぞれの形で神様の恵みを分かち合うことができます。だからこそ、全ての教会は教会を建てることに熱狂的になり、力を注ぐべきです。教会と教会とが繋がって一つとなり、イエス・キリストがまた来られる日までリバイバルの収穫を続けていく必要があるのです。」と熱く語りました。



マレーシア宣教 2024.5.1-3(水-金)

マレーシア・クアラルンプールで開催された「炎の聖会」

話がすむと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われた。シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」。そしてそのとおりにしたところ、おびたしい魚の群れがはいって、網が破れそうになった(後略) — ルカによる福音書 5:4-7 —



5月29日-31日、純福音東京教会の宣教チームは、マレーシア・クアラルンプールを訪れ、「ファイヤーカンファレンス(炎の聖会)」に参加しました。そして、メイン講師として招かれた志垣重政牧師が礼拝を導きました。

ファイヤーカンファレンス(炎の聖会)は、台北新店行道教会の担任牧師であるジャン・マオソン牧師が主催する中華圏福音化のための聖霊集会です。

台湾から始まったこの聖会は、現在では香港、ニュージーランド、オーストラリアなど9か国の中華圏地域にまで拡大しております。

マレーシアでの聖会は2023年よりスタートし、今年で2回目であるにもかかわらず、4000人もの聖徒が集まり、共に主の御名を叫び求める恵みの聖会となりました。

志垣重政牧師は、ルカによる福音書5:4-7の御言葉からメッセージを取り次ぎ、「失望の中にいた

ペテロがイエス様の御言葉に従順して奇跡を体験したように、イエス・キリストを人生の船に招くことが私たちの人生の鍵です。」と伝えました。

そして、「様々な人種や宗教が混在し、伝道が禁止されているマレーシアにおいて、イエス・キリストの考えを持ち続けることが大切です。」と伝え、現地の聖徒を励まし、更なるリバイバルを共に祈りました。



アジアリーダーズサミット@インド 2024.6.4-5(火-水)



6月4日-5日、「アジアリーダーズサミット(Asia Leaders Summit)」(以下ALS)がインドのハイデラバードで開催されました。

ALSは、「アジアの福音化はアジア人が成し遂げよう」というスローガンを掲げ、2013年にイ・ヨンファン牧師(汝矣島福音教会担任牧師)が、アジア各国の教会指導者と共に設立しました。日本、韓国、マレーシア、インドネシア、フィリピンなどアジア各国で活動しています。

今年は、サティシュ・クマール(Satish Kumar)牧師が担任を務めるインド・ハイデラバードのカルバリテンプルチャーチで開催され、志垣重政担任牧師は日本を代表して参加し、礼拝と祈りを捧げると共に、セミナーや近況報告、意見交換を行いました。

加えて、カルバリテンプルチャーチでは、19周年記念祝賀聖会が開催され、ALSの創立者であるイ・ヨンファン牧師(汝矣島純福音教会担任牧師)を講師として礼拝が捧げられました。

40℃を超える酷暑の中で開かれたこの聖会には、世界中から集まった霊的指導者、インド全域から集まった教会指導者、および多くの聖徒が礼拝をお捧げし、インド地域と同教会のリバイバル、そして聖徒の祝福のために切にお祈りをする尊い時間を共にすることができました。

インドのクリスチャン人口は、全人口の2.3%を占めます。世界最大の人口を抱える国であることを考慮すると、非常に多くのクリスチャンが生活を営む国と言えます。一方で、ヒンドゥー教や、イスラム教、仏教などの偶像が集まる地でもあり、クリスチャンとして生き、働きを成すためには、未だに困難な道のりがあります。

このような偶像の地で、カルバリテンプルチャーチは、2005年に25人の聖徒からスタートし、現在では30万人規模となり、インド最大の教会へと成長し、世界で最も成長を遂げた教会の1つとして知られています。

日本にも一刻も早くインドと同様の聖霊運動が巻き起こることを願い、リバイバルの炎が燃え立つことを信じ、お祈りいたします。

志垣重政担任牧師コラム 『 隠された生命力 』



また言われた、「神の国を何に比べようか。また、どんな譬で言いあらわそうか。それは一粒のからし種のようなものである。地にまかれる時には、地上のどんな種よりも小さいが、まかれると、成長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥が宿るほどになる」。

— マルコによる福音書 4:30-32 —

神様に用いられるヴィジヨナリー、夢のある人になるためには、自分自身の内に秘められている偉大な可能性を見つめなければなりません。『からし種』の比喻は、単純に小さなモノの貴重性を表すのではなく、からし種の持つ生命力を表しています。その成長性がポイントなのです。0.5ミリ、0.5グラムの種がやがては1.5メートル、大きいモノは3メートルになります。イエス様はこの喩えを通して、福音の生命力を教えておられるのです。福音とはイエスキリストご自身、そして道であり、生命であり、光であり、力なのです。

弟子達は『イエス様に従って得たのは、イエス様のことを知ったことだけではないか』と不満を漏らします。弟子達の不平は、大きな勘違い、間違いであることは言うまでもありません。イエス様こそ福音そのものであり、人生の夢・希望・力の根源であることに気づいていなかっただけなのです。

実際、イエス様に従い離れないだけでも、その人の人生は既に成功していると言えます。イエス様は父なる神様から、「天においても地においても一切の権威を受けられた(マタイ28:18)」お方です。ですから弟子達に“あなた方は行って、全ての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなた方に命じておいた一切のことを守るように教えよ。見よ、私は世の終りまで、いつもあなた方と共にいるのである」。(28:19~20) と命じられたのです。イエス様は私達を満たして下さり、神であり、私達の全てです。福音を受容れることはイエス様を受容れることであり、その生命と力を受取ることになるからです。

ヴィジョンとは未来を見ることのできる能力です。今、現実には辛く苦しく不透明であっても、明日を見ることのできる人をヴィジヨナリーと呼びます。そして御言葉に依り頼み、行くべき対岸を見ることが出来る人を信仰人と言います。

弟子達が、癩癩(てんかん)の子を癒す事ができず『主よ、どうして我々にはできなかったのですか』と聞いた時、イエス様は『信仰が足りないからである』と仰いました。つまり、信仰に基づいたヴィジョンが足りないからと仰ったのです。無くてはならないのは環境ではなく、イエスキリストです。主を通して見た時、不可能が可能に変わります。その可能に見えたモノをヴィジョンと呼ぶのです。

では、どうすれば主が望んでおられるヴィジヨナリーになれるのでしょうか。それは、からし種が成長する様に、自分自身の成長が隣り人の幸福につながると言うヴィジョンを持つことです。どんなに辛いことがあってもイエスキリスト充滿な人は必ず立ち上がることができます。そして、自分が立ち上がることは、隣り人の幸福になる確信を持つのです。目前の苦難を克服した時に、隣り人と祝福を分かち合える喜びを持つのです。からし種が大きくなった時に、多くの鳥達が巣を得ることができるように、皆さんの木に多くの隣り人が来て、安息を得ている姿を思い浮かべましょう。私達が学ぶのも、働くのも隣り人をもてなすためです。

神がアブラハムを呼び出された時、神は「あなたを祝福する者を私は祝福し、あなたを呪う者を私は呪う。地の全てのやからは、あなたによって祝福される。」と約束されました。同じ様に、神様は皆さんが祝福の根源になることを望んでおられます。それは、皆さんが『祝福の通路』に、『神様の道具』になる事です。イエス様と一緒に夢とヴィジョンを持つ皆さんでありますように。そして、隣り人に幸福をもたらす存在になりますように主の御名によってお祈り致します。

キリスト教大韓神様の聖会(キハソン)第73次定期総会 2024. 5. 20(月)

5月20日午後2時より、韓国の純福音済州(チェジュ)島中央教会で、汝矣島純福音教会教会のイ・ヨンフン担任牧師が代表を務めるキリスト教大韓神様の聖会(通称:キハソン)の第73次定期総会が開催され、純福音日本総会長である志垣重政担任牧師が海外を代表し祝辞を述べました。



祝辞(志垣重政牧師)

1958年にアメリカの宣教師から引き継いで、チョー・ヨンギ先生が初代総会長に就任したこと、1992年~2000年までの8年間、8800万人の聖徒が所属する世界神様の聖会の初代総裁になられたこと、そして、汝矣島純福音教会が世界最大の教会になったことは、全て神様の時であり、摂理であり、神様が用いられた結果でした。

同じく、イ・ヨンフン先生が、汝矣島純福音教会の第二代・会長担任牧師になったことも、2018年に教団が統合することができたことも、神様の時であり、摂理であり、神様がイ・ヨンフン先生を用いられた結果でした。

人の計画でなされたのではなく、神様のご計画であったことに想いを馳せ、神様に感謝するのみです。本教団の和合と団結は、海外で働く宣教師にとって、力であり、励みです。ますますの成長と発展を願ってやみません。